



宮崎県 宮崎市消防局
消防局長 横井 吉隆

自然と神話に囲まれたまち みやざき

宮崎市は、「太陽と緑」に象徴され、南北38kmにおよぶ海岸線に沿って北上する黒潮の恵みで、一年をとおして四季折々の花や緑に彩られています。さらに、管轄する隣接の綾町には、九州山地へと続く日本最大級の照葉樹林が広がり、本年7月「ユネスコ エコパーク」に登録が決定するなど、豊かな自然と温暖な気候に恵まれた都市です。

また、「神話と伝説のふるさと」といわれる宮崎は、古事記や日本書紀に記されている日向神話をはじめ、歴史ロマンをほうふつさせる数多くの伝説や史跡にあふれ、歴史資源の宝庫となっています。

今年は、古事記編さん1,300年の節目に当たり、「神話のふるさとみやざき温故知新ものがたり」をコンセプトに、県をあげて様々な取り組みを展開するなど盛り上がりを見せています。



国指定特別天然記念物 青島亜熱帯性植物群落を有する「青島」



神話の舞台である「みそぎ池」

迅速な初期治療への取り組み

宮崎市消防局は、宮崎県の東部に位置する宮崎市・国富町・綾町の1市2町、870.53km²を管轄し、1局2署1分署

6出張所335名の消防職員と3,065名の消防団員で管轄人口433,061人の生命と財産を守り、安心して暮らせるまちを実現すべく、邁進しております。



宮崎県ドクターヘリ

前段のとおり、宮崎県は海や緑に囲まれた自然豊かな地域ですが、裏を返せば道路交通網が未発達で、災害や救急事案発生時に初動体制が確保できない地域が残っているとも言えます。このことを解消するため、宮崎県は平成24年4月から宮崎市に所在する宮崎大学医学部付属病院を拠点とし、ドクターヘリを導入しました。これにより、県内全域において、出動要請から30分以内に医師による初期治療が可能となり、より多くの人命を救うための大きな一歩となりました。

東日本大震災を受けての対策

昨年3月の東日本大震災を受け、当市では、津波ハザードマップの見直しをはじめ、津波避難所等への標高表示板の設置や、「津波災害図上訓練指導マニュアル」を作成するなど、地震・津波に対する対策の強化を図る一方で、市民自身の災害対応力の向上を目指し積極的に啓発活動を行っています。

その一環として、今年度は、自主防災組織の結成及び育成（活性化）をさらに促進することを目的として、「市民防災啓発事業」を立ち上げ、防災リーダー等の育成強化に努め地域防災力の強化を推進しているところです。

南海トラフ南端の西側に位置する宮崎市は、日向灘沖で巨大地震が発生した場合には、甚大な被害を受けることが懸念されています。そのため、今後においても、あらゆる事態を想定し、過去の災害から得た教訓を糧に、これまで以上に安全で安心して暮らせるまちづくりを目指して、消防職団員のみならず市民一丸となって地域防災力の強化に取り組んで参ります。